

【短報】ヒメイカリゾウムシ成虫の活動習性について

ヒメイカリゾウムシ *Euthycus inaequalicollis* Morimoto は、沖縄島、石垣島、与那国島、および台湾に分布するゾウムシ科アナアキゾウムシ亜科の1種である (Morimoto, 1982; 的場, 1983)。本種は周年発生し、成虫期にホシダ *Thelypteris acuminata* (ヒメシダ科) を食することが知られているが (東, 1987)、稀種であり、幼虫期も含めてその生態については未だ不明な点が多い。

筆者は、沖縄島と石垣島で本種成虫を多数採集し、その活動習性を観察する機会に恵まれたのでここに報告をする。データは下記の通り、採集者は全て筆者である。

2頭、沖縄島名護市勝山嘉津宇岳, 21. IV. 2010; 6頭 (他数頭目撃), 同地, 1. X. 2015; 40頭 (他多数目撃), 石垣島新川万勢山林道, 19-21. I. 2016.

沖縄島の調査地は登山道沿いのホシダ群落、石垣島の調査地は林道沿いのホシダ群落である (図1)。各調査地とその周辺においてホシダは林床に普遍的に見られたが、ゾウムシの生息は局所的であった。

日中の目視による調査ではホシダ上から本種を1頭も確認できず、丁寧なビーティングによって僅

な個体が得られたのみであったが、地上部をかき分けて地面を探すと、ホシダの地上茎基部に潜む成虫を少ないながらも発見できた。さらに、夜間に懐中電灯でホシダを丹念に照らして歩くと、淡緑色の若い葉を摂食中の個体 (図2, 3) や葉上で交尾中の個体を多数確認でき、とくに矮小な株に多く見られた。なお、夜間にはホシダ以外の植物上でも少数の成虫を発見したが、これらは歩いて移動中だったと思われる。以上のことから、本種の成虫は夜行性であると考えられた。また、日中にビーティングで得られる個体数が少なく、少数ながら地表付近に潜む個体が見られたこと、採集した個体の過半数の体表に多少なりとも泥が付着していたことから、本種の成虫の多くは、日中は植物体上ではなく、落葉下や地中に潜んでいる可能性が高いと考えられた。

以下は余談だが、成虫は刺激すると落下せず植物体にしがみつくとので、手づかみにも関わらず採集時のロスが非常に少なくて済んだ。また、1月の石垣島では触角や脚節を欠損した個体が多かったので、成虫寿命は長いのではないかと感じた。試みに10頭ほど生かして持ち帰り、ポット植えのホシダと共に容器に入れておいたところ、飼育下でも日中は水苔の下に半分地中に埋まった状態で潜み、夜になると動き出してホシダの葉を摂食するのが観察できた。

引用文献

- 東 清二 (編著), 1987. 沖縄昆虫野外観察図鑑, 第2巻. 甲虫目. x + 252 pp. 沖縄出版, 浦添市.
 的場 績, 1983. イカリゾウムシ属2種の採集例. 甲虫ニュース, (61): 7.
 Morimoto, K., 1982. The family Curculionidae of Japan. I. Subfamily Hylobiinae. Esakia, (19): 51-121.

(吉武 啓 305-8604 つくば市観音台3-1-3
 国立研究開発法人農業環境技術研究所)



図1. ヒメイカリゾウムシの生息環境 (石垣島新川)。



図2. ホシダ葉上のヒメイカリゾウムシ成虫。



図3. ヒメイカリゾウムシ成虫に食害されたホシダ。